

【平成 28 年 12 月の経済報告】

平成 28 年 12 月 22 日

本稿は、マイクロマシン／MEMS 分野を取り巻く経済・政策動向のトピックをいろいろな観点からとらえて発信しています。初冬、平成 28 年 12 月の経済報告をお届けします。

1. 全般動向

平成 28 年 12 月 8 日、内閣府は 2016（平成 28）年 7～9 月期四半期別 GDP 速報（2 時速報値）を公表した。今回の 2016（平成 28）年 7-9 月期 2 次速報においては、通常の 1 次速報から 2 次速報への改定に加え、2008SNA への対応を含む平成 23 年基準改定及び平成 27 年度国民経済計算年次推計（支出側系列等）を反映したものである。

2016（平成 28）年 7-9 月期の GDP 成長率（季節調整済前期比）は、2 次速報値において、実質 0.3%（年率 1.3%）、名目 0.1%（年率 0.5%）となった。実質成長率、名目成長率ともに 1 次速報値から下方改定となった。

実質 GDP 成長率に対する内外需別の寄与度を見ると、民間最終消費支出などが上方改定となったものの、民間在庫変動や民間企業設備などが下方改定となったため、国内需要（内需）の寄与度が▲0.0%と 1 次速報値（0.1%）から下方改定となった。財貨・サービスの純輸出（外需）の寄与度については、0.3%と 1 次速報値（0.5%）から下方改定となった。

詳細は以下の HP をご参照下さい。

http://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/sokuhou/files/2016/toukei_2016.html

2. 各経済指標

◎ 月例報告（内閣府）（平成 28 年 11 月 25 日公表）

日本経済の基調判断

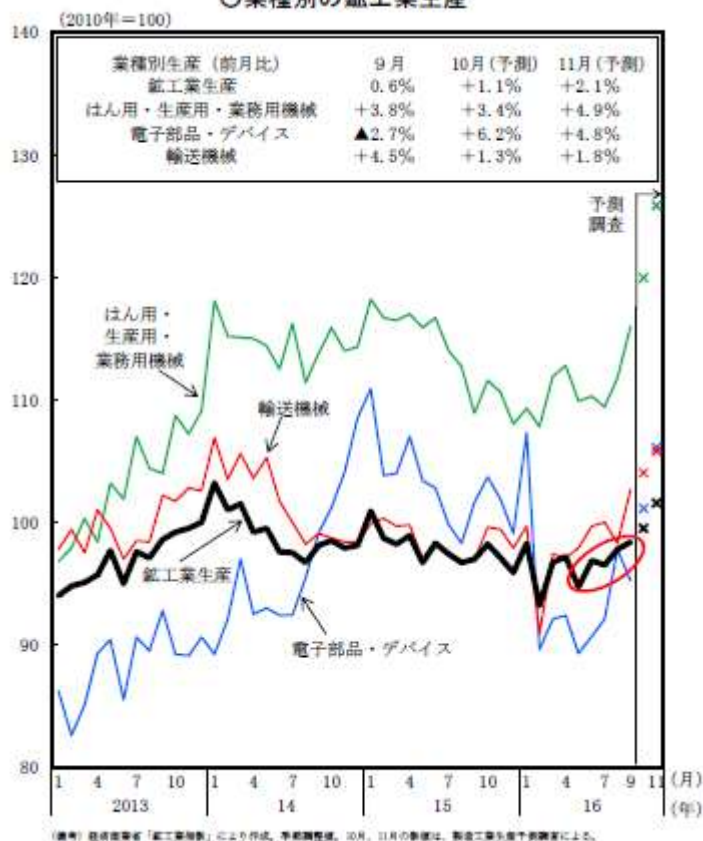
（現状）

- ・景気は、このところ弱さもみられるが、穏やかな回復基調が続いている
- ・消費者物価は、横ばいとなっている

（先行き）

先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、穏やかな回復に向かうことが期待される。ただし、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。

○業種別の鉱工業生産



詳細は以下のHPをご参照下さい。

<http://www5.cao.go.jp/keizai3/getsurei/2016/11kaigi.pdf>

◎ 設備投資

平成 28 年 10 月実績：機械受注統計調査報告

(平成 28 年 12 月 12 日内閣府経済社会総合研究所)

機械受注総額の動向をみると、2016(平成 28)年 9 月前月比 0.9%増の後、10 月は同 3.3%増の 2 兆 1,486 億円となった。需要者別にみると、民需は前月比 1.2%増の 9,842 億円、官公需は同 23.5%増の 2,724 億円、外需は同 1.9%増の 7,998 億円、代理店は同 8.4%減の 1,111 億円となった。

民間設備投資の先行指標である「船舶・電力を除く民需」の動向をみると、2016(平成 28)年 9 月前月比 3.3%減の後、10 月は同 4.1%増の 8,783 億円となった。このうち、製造業は同 1.4%減の 3,310 億円、非製造業(除く船舶・電力)は同 4.6%増の 5,336 億円となった。

対前月(期)比

(単位:%)

期・月 需要者	2015年 (平成27年) 10-12月 (実績)	2016年 (平成28年) 1-3月 (実績)	4-6月 (実績)	7-9月 (実績)	10-12月 (見通し)	2016年 (平成28年) 7月 (実績)	8月 (実績)	9月 (実績)	10月 (実績)
受注総額	4.6	-4.4	-6.1	-3.0	-1.3	-2.8	-4.0	0.9	3.3
民需	6.3	12.4	-17.1	2.1	0.3	-1.2	-0.5	-0.7	1.2
（除船電）	2.6	6.7	-9.2	7.3	-5.9	4.9	-2.2	-3.3	4.1
製造業	-3.0	13.7	-13.4	4.5	-3.8	0.3	-4.0	-5.0	-1.4
非製造業(除船電)	5.6	3.5	-5.0	3.2	-6.2	8.6	-1.9	-0.9	4.6
官公需	-11.1	20.0	-13.3	11.0	-16.7	22.0	-15.7	-10.3	23.5
外需	9.1	-26.6	3.7	-6.0	2.6	-11.7	6.8	1.4	1.9
代理店	3.4	6.3	-0.5	9.1	-8.0	4.1	-3.3	5.6	-0.4

(備考) 季節調整値による。季節調整系列は個別に季節調整を行っているため、需要者別内訳の合計は全体の季節調整値とは一致しない。

詳細は以下の HP をご参照下さい。

<http://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/juchu/1610juchu.html>

◎鉱工業指数調査

【最新プレス情報 平成 28 年 10 月分】（平成 28 年 12 月 14 日発表）

鉱工業指数(生産・出荷・在庫、生産能力・稼働率、生産予測指数)

～製造業の動きから見る日本の景気～

<概況>

製造工業稼働率指数は、98.1 で前月比 1.4%の上昇であった。

製造工業生産能力指数は、94.5 で前月比 0.0%の横ばいであった。

製造工業生産能力・稼働率指数、平成22年（2010年）= 100

	季節調整済指数		原指数		
	指数	前月比	指数	前月比	前年同月比
稼働率	98.1	1.4	97.8	-3.0	-1.9
生産能力			94.5	0.0	-0.6

鉱工業指数、平成22年（2010年）= 100

	季節調整済指数		原指数	
	指数	前月比	指数	前年同月比
生産 (速報値)	98.4 (98.5)	0.0 (0.1)	98.7 (98.8)	-1.4 (-1.3)
出荷 (速報値)	98.3 (98.5)	2.0 (2.2)	96.9 (97.1)	-2.0 (-1.8)
在庫 (速報値)	108.6 (108.6)	-2.1 (-2.1)	110.7 (110.7)	-3.0 (-3.0)
在庫率 (速報値)	114.2 (113.9)	-0.6 (-0.9)	113.6 (113.3)	1.1 (0.8)

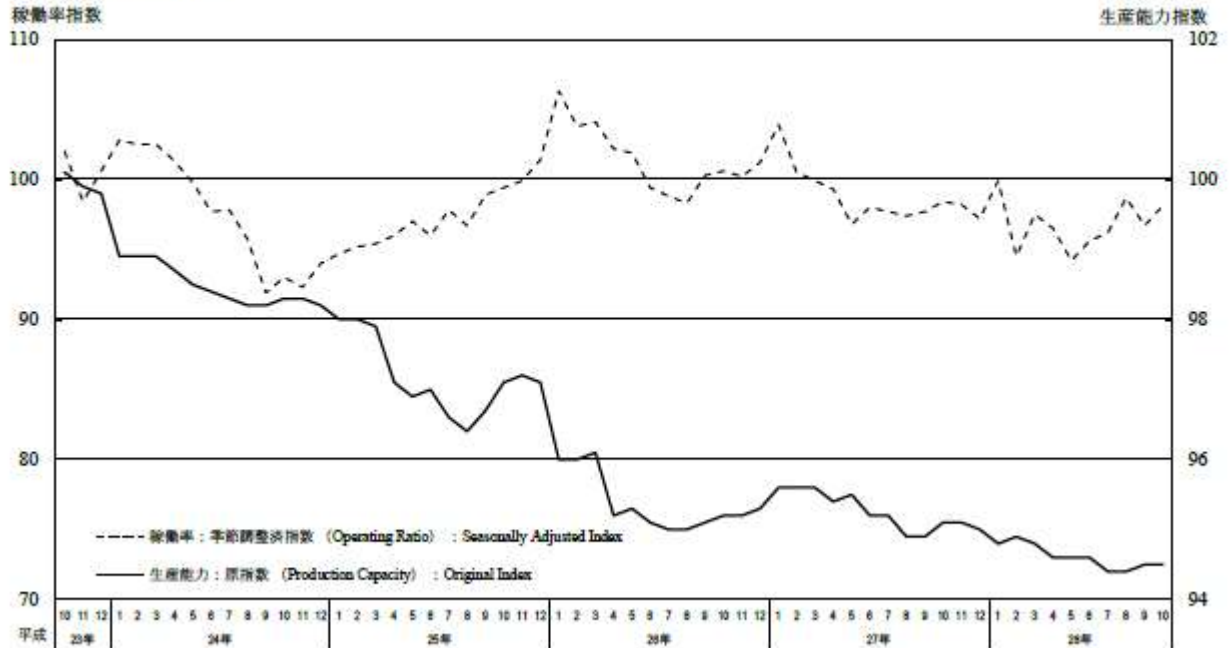
<電子部品・デバイス工業、電気機械工業>

(1) 10月の製造工業稼働率指数は、98.1で前月比1.4%の上昇であった。業種別にみると、電子部品・デバイス工業同7.9%、輸送機械工業同1.2%、はん用・生産用・業務用機械工業同1.7%等が上昇し、化学工業同▲2.6%、その他工業同▲1.6%、パルプ・紙・紙加工品工業同▲1.3%等が低下した。

(2) 10月の製造工業生産能力指数は、94.5で前月比0.0%の横ばいであった。業種別にみると、電子部品・デバイス工業同0.6%、電気機械工業同0.5%、はん用・生産用・業務用機械工業同0.1%が上昇し、非鉄金属工業同▲0.8%、石油・石炭製品工業同▲0.7%、鉄鋼業同▲0.3%等が低下した。

製造工業生産能力指数・稼働率指数の推移(グラフ)
 Historical Data (Graph) for Indices of Production Capacity and Operating Ratio

(平成22年基準)
 (2010 average=100)



製造工業生産能力指数・稼働率指数の時系列表
 Historical Data for Indices of Production Capacity and Operating Ratio

平成22年 = 100
 Index 2010 = 100

年 月	稼働率 Operating Ratio				生産能力(末) Production Capacity			Year and Month	
	季節調整済指数 Seasonally Adjusted Index		原指数 Original Index		原指数 Original Index				
	前月(期)比 %Change From Previous Month(Quarter)		前年 (四半期)比 %Change From Previous Year		前月(期)比 %Change From Previous Month(Quarter)	前年 (四半期)比 %Change From Previous Year			
平成 25 年			97.3	▲ 0.5	97.1		▲ 1.1	O.Y. 2013	
26			101.3	▲ 4.1	95.3		▲ 1.9	O.Y. 2014	
27			98.7	▲ 2.6	95.0		▲ 0.3	O.Y. 2015	
平成 25 年度			100.0	4.8	96.1		▲ 1.8	F.Y. 2013	
26			100.6	0.6	95.6		▲ 0.5	F.Y. 2014	
27			98.0	▲ 2.6	94.8		▲ 0.8	F.Y. 2015	
平成27 年	Ⅲ期	97.6	▲ 0.4	98.7	▲ 2.2	94.9	▲ 0.3	▲ 0.2	Q3 2015
	Ⅳ期	97.9	0.3	97.8	▲ 2.2	95.0	0.1	▲ 0.3	Q4
平成28 年	Ⅰ期	97.3	▲ 0.6	98.3	▲ 2.9	94.8	▲ 0.2	▲ 0.8	Q1 2016
	Ⅱ期	95.4	▲ 2.0	94.6	▲ 2.7	94.6	▲ 0.2	▲ 0.6	Q2
	Ⅲ期	97.2	1.9	98.1	▲ 0.6	94.5	▲ 0.1	▲ 0.4	Q3
平成27 年	8月	97.4	▲ 0.3	89.2	▲ 2.1	94.9	▲ 0.3	▲ 0.1	Aug. 2015
	9月	97.7	0.3	101.8	▲ 2.7	94.9	0.0	▲ 0.2	Sep.
	10月	98.4	0.7	99.7	▲ 3.2	95.1	0.2	▲ 0.1	Oct.
	11月	98.2	▲ 0.2	97.2	0.0	95.1	0.0	▲ 0.1	Nov.
	12月	97.2	▲ 1.0	96.4	▲ 3.3	95.0	▲ 0.1	▲ 0.3	Dec.
平成28 年	1月	99.9	2.8	93.0	▲ 5.3	94.8	▲ 0.2	▲ 0.8	Jan. 2016
	2月	94.5	▲ 5.4	95.9	▲ 2.3	94.9	0.1	▲ 0.7	Feb.
	3月	97.5	3.2	106.1	▲ 0.9	94.8	▲ 0.1	▲ 0.8	Mar.
	4月	96.5	▲ 1.0	92.8	▲ 4.3	94.6	▲ 0.2	▲ 0.8	Apr.
	5月	94.2	▲ 2.4	91.0	▲ 1.2	94.6	0.0	▲ 0.9	May
	6月	95.6	1.5	100.0	▲ 2.4	94.6	0.0	▲ 0.6	Jun.
	7月	96.2	0.6	100.4	▲ 4.6	94.4	▲ 0.2	▲ 0.8	Jul.
	8月	98.7	2.6	93.2	4.5	94.4	0.0	▲ 0.5	Aug.
	9月	96.7	▲ 2.0	100.8	▲ 1.0	94.5	0.1	▲ 0.4	Sep.
	10月	98.1	1.4	97.8	▲ 1.9	94.5	0.0	▲ 0.6	Oct.

※ なお、詳細は以下の HP をご参照下さい。

http://www.meti.go.jp/statistics/tyo/iip/result/pdf/press/b2010_201610nj.pdf

2. その他の動向

1) 電子部品グローバル出荷統計

一般社団法人 電子情報技術産業協会 (JEITA) は、電子部品グローバル出荷統計の最新版月別出荷金額 (2016. 11. 30 発表) を公表しました。

- ・ 2016 年 9 月グローバル出荷額は 3,483 億円、前年比 91.9% となり、前年比マイナスとなった。
- ・ 品目別出荷は受動部品 (前年比 94.1% 1,180 億円)、接続部品 (同 99.8% 945 億円)、変換部品 (同 96.7% 742 億円)、その他の電子部品 (同 74.8% 614 億円) となった。
- ・ 地域別出荷は、日本 (前年比 104.2% 857 億円)、米州 (同 95.1% 311 億円)、欧州 (同 92.6% 307 億円)、中国 (同 81.6% 1268 億円)、アジア・その他 (同 97.8%

【月別出荷金額】

電子部品出荷額 (億円)	2016年度						2016年度累計		
	7月		8月		9月		4月-9月		
	金額(億円)	前年比 (%)	金額(億円)	前年比 (%)	金額(億円)	前年比 (%)	金額(億円)	前年比 (%)	
世界計	3,010	85	3,207	94	3,483	91	18,773	91	
(日本)	720	87	718	97	857	104	4,394	93	
品目別	受動部品	1,048	90	1,139	103	1,180	94	6,516	94
	コンデンサ	706	89	769	103	791	93	4,392	95
	抵抗器	114	90	116	99	120	98	696	94
	トランス	37	95	35	112	38	110	230	104
	インダクタ	187	89	215	101	226	90	1,176	92
	その他	3	77	3	95	3	113	21	89
	接続部品	799	86	855	94	945	99	4,972	91
	スイッチ	341	79	361	88	407	93	2,223	90
	コネクタ	453	91	489	99	532	105	2,721	91
	その他	4	93	4	101	5	115	28	97
	変換部品	643	82	664	89	742	96	3,967	88
	音響部品	113	61	133	72	181	93	853	76
	センサ	330	93	331	98	333	95	1,956	95
	アクチュエータ	200	82	199	89	227	100	1,157	87
	その他の電子部品	518	81	547	83	614	74	3,316	88
	電源部品	188	77	203	84	225	88	1,202	84
	高周波部品	329	84	344	83	389	68	2,113	90

【地域別出荷金額】

地域別出荷金額（億円）	2016年度						2016年度累計	
	7月		8月		9月		4月-9月	
	金額(億円)	前年比 (%)	金額(億円)	前年比 (%)	金額(億円)	前年比 (%)	金額(億円)	前年比 (%)
グローバル	3,010	85	3,207	94	3,483	91	18,773	91
日本	720	87	718	97	857	104	4,394	93
米州	283	86	316	97	311	95	1,816	93
欧州	257	86	280	98	307	92	1,779	99
中国	1,112	84	1,191	90	1,268	81	6,812	86
アジア他	639	86	703	93	741	97	3,987	93

※ なお、詳細は以下の HP をご参照下さい。

http://home.jeita.or.jp/ecb/information/info_stati.html

2) MEMS 関連最新調査

米国調査会社マインドコマース(Mind Commerce)の調査レポート「MEMS(微小電気機械システム) 2016 - 2021 年 : コンポーネント、製品、用途、垂直市場」は、MEMS のエコシステム、企業、製品、サービスなどの市場を査定している。2016-2021 年の MEMS 市場の機能、機器、用途、垂直市場を予測し、世界市場と地域毎に提供している。

内容は、

- * 内蔵システムと MEMS
- * MEMS 市場促進要因
- * 企業分析
- * MEMS 市場予測

となっています。

サマリーは以下の HP をご参照下さい。

<http://www.dri.co.jp/auto/report/mindc/mcmems.html>

以上